

血管性認知症について

血管性認知症とは、主に脳梗塞、脳出血など脳の血管に障害が生じ脳の機能が低下することで発症する認知症のことです。

麻痺や運動機能症状など血流障害が生じた部位や程度により症状は様々です。

できることとできないことが比較的是っきりしており「**まだら認知症**」とも呼ばれます。

<特徴>



多様な症状がみられ、1日の中でも症状の変動が大きい。



判断することや計画を立てて行動する力が低下する。



感情のコントロールが難しく、意欲の低下や興奮、泣くなど感情の起伏が激しい。



日常生活を行う力やものの認識が低下し、失語が生じやすい。

悪化予防として、日々の生活習慣の見直しや脳血管障害の再発をすることが重要です。

「できなくなった」ことを本人は自覚しているため、**混乱や不安など強いストレス**を生じます。このような思いを受容し、「**できること**」

「**持てる力**」を引き出し、最大限に発揮される関わり、自助具や福祉用具の活用、関わりが重要です。